

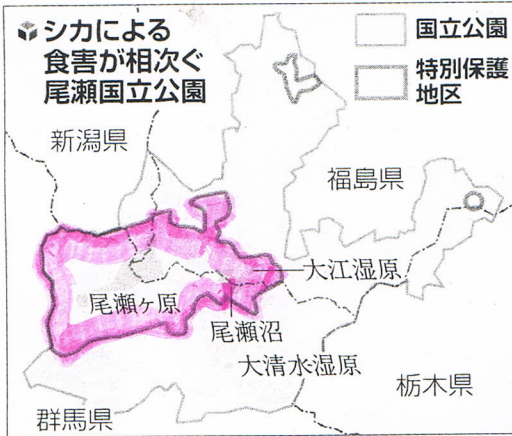
# シカ食害尾瀬正念場

## ミズバシヨウ、ニッコウキスゲ…水際で防御

群馬、福島、栃木、新潟4県にまたがる尾瀬国立公園で、ニホンシカによる食害が深刻になっている。群馬県片品村の大清水湿原では、2万株はあったというミズバシヨウが今年は「数えるほど」。環境省は、特別保護地区の尾瀬ヶ原に被害が拡大しないよう、捕獲活動を試験的に行う。福島県も、ニッコウキスゲが咲く今月から、夜間に水鉄砲やライトで威嚇したりする対策に乗り出した。

### ■人気の場所も

尾瀬ヶ原や尾瀬沼の南に位置する大清水湿原(約2万平方メートル)。特別保護地区の外側で、標高が低いため開花時期が早く、車で近くまで行けるため人気だ。同公園の約4割を管理する東京パワーテクノロジィ(旧尾瀬林業)によると、2〜3年前からシカの食害



シカに踏み荒らされ、穴が開いたようになった湿原(5月、群馬県片品村の大清水湿原で)

が開始、昨春はミズバシヨウの花や茎などが軒並み食われるなどした。山小屋経営者らの団体が湿原をネットで囲む対策を講じたものの、ミズバシヨウは今季も回復していないという。

ニッコウキスゲの食害も深刻だ。福島県などによると、尾瀬での見頃は例年7月下旬で、特別保護地区の大清水湿原では、黄色のじゅうたんを敷き詰めたような絶景となる。だが、昨季は「咲いている花を探す方が

難しい状況」(県自然保護課)。シカが花を食い散らかした形跡が至るところに見られたという。

### ■栃木から

環境省関東地方環境事務所(さいたま市)によると、尾瀬でシカが目撃され始めたのは1990年代半ば。ニッコウキスゲなどの食害が深刻化したため、同省が2006年、シカの首に発信器を付けて調べたところ、栃木県方面で越冬したシカが春から秋にかけて尾瀬で過ごすことが判明した。

### ■夜間パトロール

環境省は、昨年の深刻な食害を受け、ワナによる捕獲の実施地区を拡大する方針だ。今夏から群馬県側の尾瀬ヶ原にもワナを設置する。車が入れない尾瀬ヶ原での捕獲は手間もコストもかかるが、担当者は「被害を拡大させるわけにはいかない」と話す。

県南会津地方振興局の担当者は「シカは頭が良く、効果的な方法でも繰り返すと避けるようになる。時間も場所もランダムにするしかない。思いつく限りの手段を取る」と話した。

福島県は今月から、大清水湿原などで夜間パトロールに乗り出している。地元町村と協力し、1か月程度、職員が2人1組で場所や時間を変えて警戒する。

予算不足の中、レーザーポインターや照度の高い懐中電灯で照らしたり、強力な水鉄砲を発射したりする作戦。シカの嫌がる臭いを発する固形の薬剤を木道の下に隠すことも検討中だ。秋には、地元猟友会と協力し、ネットに追い込んで捕獲する方法も試行する。